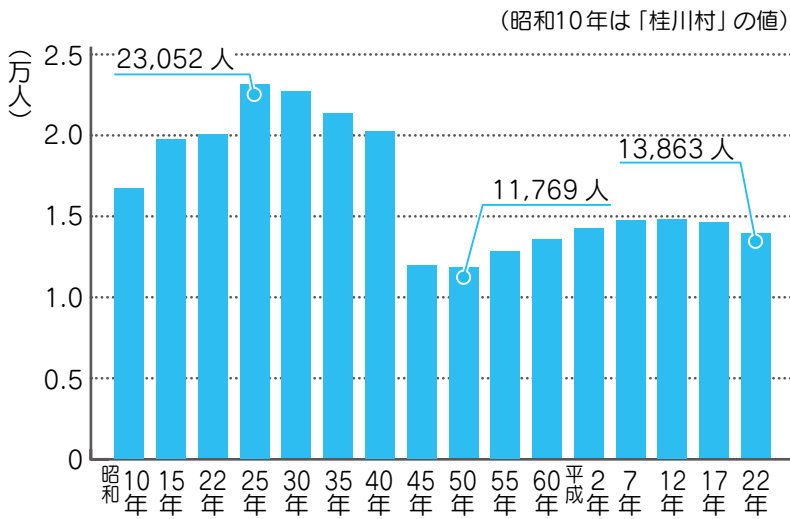


未来のために

過去を知る

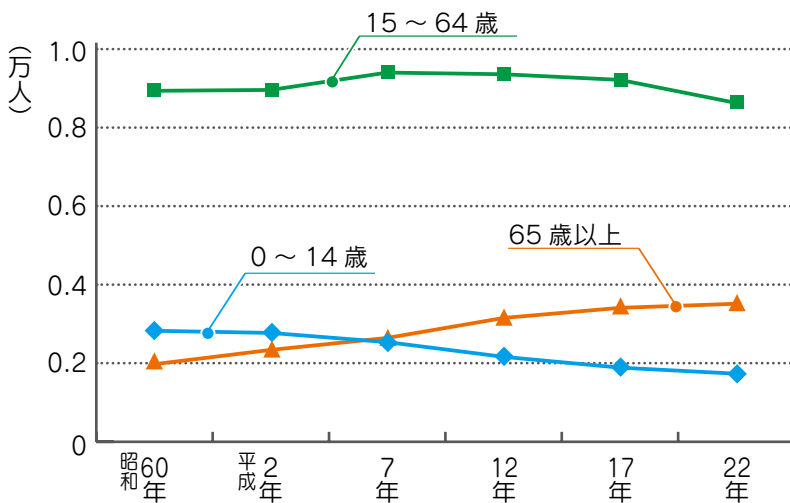
9月から行われる国勢調査。「調査に何の意味があるの?」というのはよく聞く声。実は国勢調査の結果によって、桂川の過去はもちろん、その未来が見えてきます。

特集② スマート国勢調査が始まります



■ 桂川町の人口の推移 (出典: 国勢調査)

桂川町の人口は、国勢調査開始の昭和10年から増加を続け、昭和25年にピークとなりましたが、その後、減少。昭和55年からは再び増加が続いていましたが、平成17年から微減に転じています。



■ 桂川町の年齢3区分別人口の推移 (出典: 国勢調査)

15~64歳の生産年齢人口は、平成7年をピークに減少傾向にあります。また、15歳未満の年少人口が減少する一方、65歳以上の老年人口は増加しており、少子高齢化の進展が見られます。

昭和15年、当時の桂川村が町制施行し、桂川町は誕生しました。石炭産業の発展とともに人口は増加していき、昭和25年に2万3052人の最大人口を記録。その後、石炭産業の衰退に伴い人口が減少し、昭和50年に1万1769人と、国勢調査での最少人口となりました。

近年では、65歳以上の人口が増加する中、15歳未満の人口は減少し、少子高齢化が進行しており、過去の傾向から今後は人口も減少していくと考えられます。桂川町の未来をどうすべきか、町全体の課題として考える必要があり、そのためには、国勢調査で正確な数値を把握することが重要です。

